■「まんなかビジョン」の構成■

現状認識

【変革期にある我が国の経済社会】

①低迷を続ける我が国の経済
②少子・高齢化の急速な進行
③循環型社会への模索
④行財政システムの変革
⑤高度情報化の進展

【中部地方の特性】

①地理的特性「日本のまんなか」
②生活的特性「分散型地域構造」
③産業の特性「卓越した産業集積」

【中部地方の現状と課題】

①過渡期にある中部地方の産業
②国際競争力強化が求められる国際物流・国際交流基盤
③中部地方の農産物・水産物の現状
④対策強化が望まれる環境問題
⑤「日本のまんなか」に位置し、分散型の地域構造と国際的な魅力の乏しい中部地方
⑥農山漁村地域の活力低下と交通ネットワーク整備の遅れ
⑦未成熟な中部地方の観光
⑧充分な対応が望まれる地震対策や都市型水害
⑨着実な対策が望まれる渇水問題や土砂災害
⑩悪化する地方財政

地域の声

【有識者からの声】

まんなか懇談会
今後の社会資本整備のあり方や国土交通行政のあり方を含めた中部地方の目指すべき方向について、各界の代表者から提言・意見を伺いました（委員13名計7回開催）

【経済界からの声】

企業ヒアリング
産業競争力の強化や地域の魅力に関する企業ヒアリングを実施し（50企業・団体）、国際競争力の強化や新産業の創出を図るためのニーズ等について意見集約を行いました

【市町村からの声】

市町村長ヒアリング・アンケート
中部地方の市町村長（364市町村）に対して、地域づくりに関するヒアリングやアンケートを実施、地域づくりの考え方や重点施策等について意見集約しました

【地域住民からの声】

ビジョン討論会・国土交通ふれあい広場
地域住民の方を対象として、中部地方の8会場（H14年度）及び13会場（H15年度）で開催し、討論会や来場者アンケート調査で多数のご意見を頂きました

住民満足度調査
「まんなかビジョン」に示された地域づくりの40の目標について、中部地方にお住まいの15,000人を対象に、現時点における満足度をお尋ねしました（5,099人から回答）

基本的スタンス

既存ストックの活用	コスト縮減・技術開発、重点化・効率化	環境共生	民間活力の活用
分野間の連携強化	ハード・ソフト施策の戦略的組み合わせ	住民参画	IT活用

目指すべき方向（7つの方向と40の目標）

【中部地方の将来像】
『日本の「まんなか」である地理的優位性を活かし、暮らし・産業が調和した、世界に誇れる中部の創造』

Ⅰ．モノづくりなど産業の国際競争力の強化	Ⅱ．世界都市を目指した名古屋及び各拠点都市の魅力向上	Ⅲ．東海環状都市圏・環伊勢湾広域交流圏などの形成による新たな交流の拡大	Ⅳ．日本のまんなかである優位性を活かし、国土の東西・南北軸の強化や交流拠点整備による国内外交流の拡大	Ⅴ．中部の豊かな自然環境、歴史、文化などを活かした地域づくり・観光振興	Ⅵ．誰もが生き生きとして暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現	Ⅶ．東海・東南海・南海地震をはじめとした災害に強い安全・安心な地域づくり
具体的な目標：4 主要プロジェクト：3	具体的な目標：8 主要プロジェクト：3	具体的な目標：2 主要プロジェクト：1	具体的な目標：6 主要プロジェクト：2	具体的な目標：8 主要プロジェクト：3	具体的な目標：8 主要プロジェクト：3	具体的な目標：4 主要プロジェクト：3

3つのフォローアップ指針

【不断のフォローアップ】

①アウトカム指標の提示
②定期的な評価
③満足度調査等による評価結果の公表
④「まんなかビジョン」の見直し

【役割分担の明確化と既存の枠組みを超越した連携】

①行政・企業・住民等との役割分担
②省庁を越えた連携
③県境を越えた連携
④ブロックを越えた連携

【地域本位の行政展開】

①まんなか懇談会の継続的開催
②積極的なPI（パブリック・インボルブメント）の継続
③国土交通広域連携中部会議の設立
④地方公共団体や経済団体等、様々な関係者が計画策定に参加する仕組みの継続
⑤ローカル・ルールの積極的な導入
⑥社会資本整備重点計画などの計画立案への反映